

会議録

会議名	令和6年度第1回和光市総合教育会議
開催日時	令和6年8月8日（木）午後3時00分～午後4時00分
開催場所	3階庁議室
出席委員	柴崎市長、石川教育長、山田委員、村中委員、牧委員
関係職員	大野企画部長、斎藤健康部長、渡辺子どもあんしん部長、横山教育部長
事務局	企画人権課（斉藤課長補佐、橋本統括主査、田中主任、安井主任） 学校教育課（辻教育委員会事務局次長兼学校教育課長）
傍聴者	なし
議題	1 性教育等について

1 不登校の児童生徒全ての学びの保障について

○市長

ただいまから、令和6年度第1回和光市総合教育会議を開会します。

次第に基づき「性教育等について」を議題とします。

○事務局（学校教育課）

学校教育において、子どもたちにまつわる「いのち」に係ることはとても多岐にわたります。例えば、低学年では、交通安全教室で交通事故から自分の命を守ることを学び、生活科では、動植物を育てることを通して、自分以外の命と触れ合います。私たちの子どもの頃には、各学校でニワトリなどの動物の飼育も行ってたかと思いますが、グラフの通り減ってきました。

一方、児童生徒の自殺者の話題も、ニュース等で目にします。残念なことですが、児童生徒が自らの命を絶つ事案がなくなることはありません。また、性被害等の根絶のための取組も進められています。

漢字の「命」ではなく、ひらがなの「いのち」をよくこの文脈で使いますが、いろいろ諸説あるようですが、一つの事例として、こんな意味・意義があるようです。生物学的な命だけではなく、何か物質にも生命が宿っているような感覚で物事を考えるところもあるかと思います。そういった意味も含めて、小・中学校でのまなびで「いのち」を捉えると、それぞれの学びの中から、いのちについて考える場面はたくさんあります。例えば、国語では、言葉の意味や文学作品との触れ合いを通して、命を考える機会があります。また、理科では、科学的な見地から生き物について調べる学習を通して、いのちについて考えていきます。図工や音楽でも、創作活動や鑑賞活動を通して、作品のエネルギーのようなことに触れる機会もあるでしょう。

各教科での学びの一つに、保健体育の保健指導において、性に関する指導が行われています。小・中学校の特別活動では、心身ともに健康な生活態度の形成や男女相互理解と協力、思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応等について、具体的に考える機会があります。また、小学校の体育の保健分野や中学校の

保健体育では、もう少し専門的な見地から具体的に学ぶ機会があります。私たちの認識の中では、小学校4年生で性に関する具体的な指導が、教科の指導の中で行われているという認識です。

また、文部科学省では「いのちの安全教育」を推進していくために、指導の手引きや教材を提供しています。こちらは、「生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、生命を大切に考える考えや、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を発達段階に応じて身につけることを目指すもの」です。

幼児から大人まで、発達段階に応じた資料や指導案等が提供されています。例えば、小学校低学年では、水着で隠れる部分は自分だけの大切なところであることや、相手の大切なところを、見たり、触ったりしてはいけないことなどを、動画等の資料を活用して学んでいきます。また、中学校では、デートDVやSNSを通じた被害など、性暴力について学んでいきます。

本市の取組ですが、例えば性に関する指導については、基本的には養護教諭と担任が連携して指導し、いのちの安全教育については、企画人権課が行っているデートDV防止セミナーを活用し、地域の助産師さんにお越しいただいて低学年向けの出前授業を行ったりしているなど、各学校の実情に合わせて進められています。

学校での取組の現状ですが、大きく2つの課題があります。一つは時間の確保です。準備の時間とその授業実践の時間の2つの確保が課題です。もう一つは扱いの難しさです。良い授業を追究したことが賛否両論になるケースもあります。また、今の学校現場はとにかく若い先生、経験が浅い先生方が多く、どのように指導していくことがよいのか、その扱いの難しさがあります。

取組の現状や課題を通して、学校としての今後の方向性は、自らの教育実践の追究を進めていくことが期待されますが、その実践が非常にデリケートな内容であるために、保護者や地域の皆様のご理解等が必要となります。

最後に、視点が少しずれるかもしれませんが、本市の平和都市宣言が昨年の3月に示されましたが、内容からしても、とても親和性の高いものではないかなと感じています。説明は以上となります。

○市長

ありがとうございました。只今の説明について、皆様からのご意見はございますか。

○事務局（企画人権課）

本日欠席されている天内委員から事前にご意見を4点いただいておりますので、報告します。

心の変化や思春期の自分との付き合い方について、外部授業の検討をお願いします。より世間に近い情報と高い専門性が期待できると考えます。また、子どもだけではなく、大人も一緒に学び、全員が知っておくべき人としての大切な内容なので、家での話題の1つにできるくらい、オープンかつ身近であってほしいと思います。

性犯罪は他人事ではなく、身近にあるという認識です。無知による行動との危険連動性、身の守り方と合わせて学んでもらいたいです。

大人の世代ではタブー視されていましたが、今は簡単にインターネット上で情報が入手できるため、正しい知識の入口と、家庭での親子の話題例を教えてください。

最後に、性教育としてのスタート時期は小学校5年生だったと思いますが、タイミングとしては少し遅い感覚があります。道徳のように、授業として学ぶだけでなく、小さいうちから「あたりまえ」にできるような方法はないでしょうか。思春期前の早いうちから性に対する情報に触れることにより、恥ずかしさや抵抗感が軽減できると考えます。

○山田委員

授業の内容に差が生じないよう外部指導は有効だと思います。道徳など様々な授業の中で連携を進めていただきたいです。

○市長

現在の保健体育での取り扱い状況はいかがでしょう。

○事務局

小学4年生で体の発育・発達の授業があり、中学1年生で男女の体の違いを学びます。

○市長

外部指導は、山田委員と同様に私も有効だと考えます。

○山田委員

ヤギ等を飼わなくなったのは管理が理由でしょうか。飼育を通して、命の大切さを学ぶことも大切だと思います。

○教育長

各学校で行うのは難しく、良い取組という認識はありますが、断念せざるを得ない状況です。

○村中委員

学校で生き物を飼うなら魚や金魚が現実的です。魚は育て方を間違えると長く生きられないため、命の大切さを学ぶことができます。

性における問題としては、不同意性交や感染症があると思います。また、多様な性の在り方がありますが、全ての人に性教育が必要で、相手の気持ちを考えることが重要だと思います。

○牧委員

いのちという議題を考えた時に幅広く、どこから考えてよいのか迷いましたが、自分自身を目に向けた時に、学生時代、男女混合の授業で月経の前後や月経中の体の変化を発表する授業がありました。その授業を聞いてある男子学生が「もっと早く知りたかった」「彼女の辛さを理解していたらもっと優しくなれた」といった発言があり、適切に知ることが大切だと感じました。学校での授業とともに、家庭でも伝えることでより理解が深まると思います。

○山田委員

近年、子どもたちが SNS 等から誤った情報を得やすい状況で、被害者にも加害者にもならないよう正しい性の在り方を教えていく必要があると思います。外から入ってくる情報を精査する力を育てていくことも大切だと思います。

○教育長

授業で知識を学び、その学びを実際の生活で活かせるよう判断力を養うことが、本当の意味でのいのちの教育だと思います。これは、学校だけで行うことは難しく、コミュニティスクールや地域学校協働本部等市や家庭と連携しながらやっていかないと、学校の教育活動が行き詰ってしまいます。

現在、中学校で行っている外部授業のデート DV 防止セミナーは、内容も濃く、子どもたちが断片的に持っていた知識が紐づいていく良い機会となっています。このような出前授業が各テーマで行われるようになっていくと、生活に活かせるスキルになっていくと考えます。

○市長

幅広いテーマですので、いのちという言葉に集約していると思いますが、常に大切なテーマだと思います。外部講師の授業は、子どもたちにとって印象に残ると思いますので、通常の授業とミックスして伝えていければ良いと思いました。

2 「その他」について

○山田委員

外部講師の出前授業を実施するとしたら、カリキュラムに入れられるのでしょうか。

○教育長

1 2 月にはカリキュラムを組みはじめるため、それまでにわかっているならば可能です。

○山田委員

教育環境をよくすることが大切だと思っています。子どもたちの将来への投資として、もっと予算があれば先生方が本来やるべきことに集中できると思います。検討をお願いします。

○市長

本日お話があった外部講師などの投資を検討したいと思います。

○山田委員

事務作業に対する人材の投資は可能でしょうか。

○教育長

現在、学校教育課では事務的な作業を減らしていく方向で進めています。オンライン会議の開催等工夫をして、事務作業時間を増やせるよう環境を整えたいと思っています。和光市は理研や司法研修所等があり専門家も多い地域のため、人材を掘り起こしていきたいです。

○市長

以上をもちまして令和 6 年度第 1 回和光市総合教育会議を閉会します。

以上